

令和8年度 学校経営の改革方針

学校名 鈴鹿市立栄小学校 校長名 松本 博

記述項目	記述内容
1 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら豊かに学び、未来を切り拓くこどもの育成
2 めざす学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが夢をもち、自律して学ぶ学校 ・互いを認め合い、自己肯定感が高まる学校 ・地域や保護者に信頼される学校
3 めざすこども像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び続ける子 ・自ら考え、表現する子 ・自他ともに大切にする子 ・持つ力を出せる子 ・未来を思いえがく子
4 めざす教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・自律的・協働的に学び続ける教職員 ・教育に対する使命感と誇りをもち、こどもの人格と個性を尊重した指導ができる教職員 ・豊かな人間性や社会性を持ち、教職員同士や家庭・地域等との信頼関係を築く教職員
5 経営方針	<p>全教職員が一体となった組織的な学校運営の推進</p> <p>(1) 学力向上（自律した学習者の育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、わかる楽しさや学び合う喜びを感じるこども主体の授業づくり <p>(2) 心の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を高めることができ、自分自身が認められる場面づくり（非認知能力の育成） <p>(3) 安全・安心な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間を大切に支え合う集団づくり（非認知能力の育成） 何事も誠実・迅速・丁寧・親身に対応し、こどもたち・保護者から信頼される学校づくり <p>(4) 地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域とともにある学校づくり <p>(5) 働きやすい職場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が自らの成長を望み、やりがいを感じられる職場づくり
6 達成方策	<p>(1) 学力向上（自律した学習者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を効果的に活用し、こどもが主体的に学び、つながり、共感し合う授業づくりに取り組む。（自己調整力の育成） ・学年や個々の発達段階に応じた学習規律や生活マナーを大切に授業の確立。 ・学力調査等の結果を分析し、継続した授業改善を進めた学力向上。 ・低学年からの日常的な英語のコミュニケーション活動の推進。 ・地域に対する誇りと愛着を育む地域学習の推進。 ・読書活動の充実 <p>(2) 心の教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもたちの心身ともに健康で安全な学校生活を保障するために、全教育活動を通じた安全指導と組織的な教育相談体制を充実させ、全教職員が、学級や学年の枠にとらわれず、一人ひとりのこどもたちの気持ち考えを受け止め、安心感を与える。 ・表現する楽しさを感じ、目的を持って相手にうまく伝えようとする姿の評価。 ・同学年や異学年との交流を通して、互いの考え、多様な考えを交流する場の設定 ・授業・行事等の学校生活や家庭生活を通して達成感を持ち、自分自身に自信を持たせる。

- ・自己肯定感を高める、中学校区内の継続的な共通取組の実施。
- (3) 安全・安心な学校づくり**
- ・人権教育や道徳、学級づくり等を通して、仲間を大切にする意識を高める。
- ・仲間とのよりよい関係づくりを通じて、いじめを許さない学級づくり。
- ・不登校傾向を示すこどもの状況を把握し、関係機関と連携し、学校全体で組織的に未然防止や早期対応等の取組。
- ・こどもの個々に応じた支援体制を構築し、関係機関と連携し、学校全体で組織的に具体的な支援に取り組む特別支援教育の推進（就学前期間との連携も含む）
- (4) 地域連携**
- ・学校運営協議会を中心に家庭や地域と協働し、学校支援ボランティア、地域住民等と連携して教育環境の充実
- ・ホームページや学校だより等により、学校生活や行事等の発信。
- ・天栄中学校区の小中の連携した取組の充実。
- ・義務教育学校設置を見据えた校区連携の体制づくりを進める。
- (5) 教職員が自らの成長を望み、やりがいを感じられる職場づくり**
- ・学調、みえスタ等の結果を基に授業改善に向けた積極的に校内研修等の実施。
- ・教職員が互いに支え合い、メンタルヘルスに留意し、ハラスメントのない相談しやすく風通しの良い職場づくり。
- ・コンプライアンスの醸成に努め、信頼される学校づくりの推進。
- ・クラウド環境を有効に活用し、効率的に校務等を進め、ワーク・ライフ・バランスの充実。（総勤務時間の縮減）
- ◆休暇取得（年間平均23.0日以上）、時間外労働時間年間360時間を超える職員ゼロ、時間外労働月45時間超職員ゼロ、定時退校日（月2日設定）、校内会議の短縮（1時間以内の割合100%）、職員会議資料の前日までの配布と電子化